

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

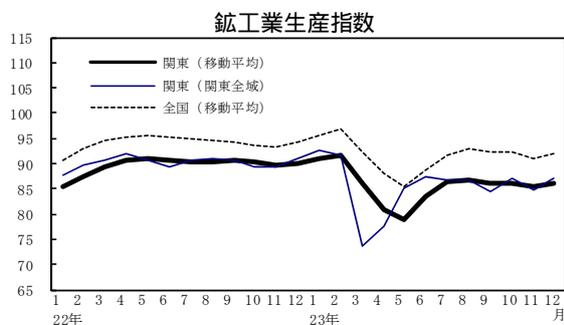
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 23 年 11 月)	今回 (平成 24 年 2 月)	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
住宅建設	増加	減少	
雇用情勢	持ち直しの動き	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

輸送機械は、7～9月期から引き続いて挽回生産により増加している。化学は、国内及び海外向けのポリエチレンやフェノール等の石油化学製品が減少している。一般機械は、自動車向け等の機械プレスは好調だが、海外向けで高価格の半導体製造装置が低調であることから減少している。電気機械は、電気冷蔵庫が旧製品から新製品へ切り替えとなったことから減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

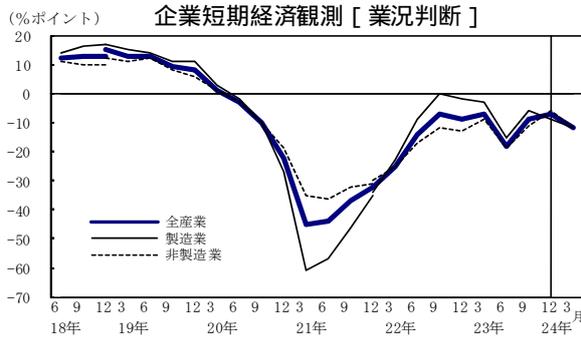
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
輸送機械	15.2	23.7	10.1	11.7	▲18.5
化学	13.4	▲1.6	—	—	—
一般機械	13.2	0.3	▲0.2	0.1	8.1
電気機械	7.8	0.2	▲3.3	1.9	▲14.0
食品・たばこ	7.1	2.7	—	—	—
鉱工業	100.0	3.2	0.2	0.5	▲0.4

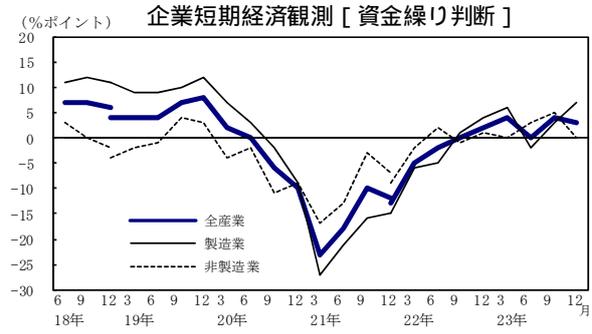
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10～12月期は速報値。化学、食品・たばこは、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

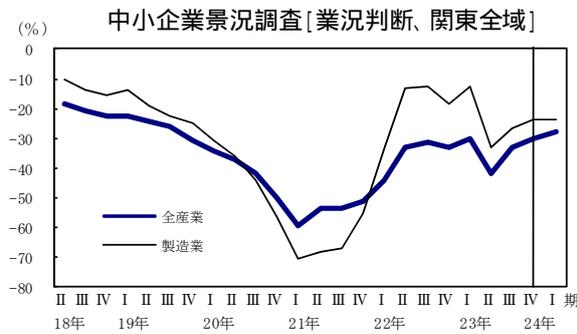
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。24年3月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域 (新潟県を含む)。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。24年I期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月) [企業動向関連 (現状)]

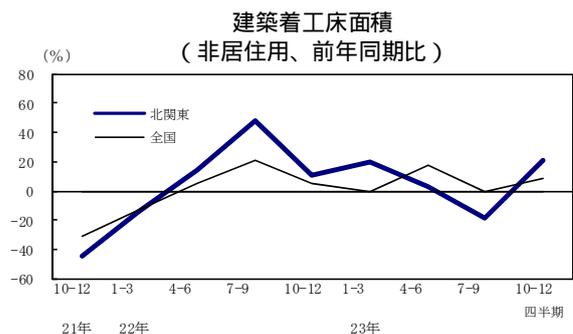
「市況が悪いなかではあるが、価格の値上げを打ち出している。時間はかかるかもしれないが、改善しないとコスト増に耐えていけない (化学工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	▲30.7	19.0(▲4.8)
製造業	21.8	36.4(▲4.2)
非製造業	▲60.2	▲10.9(▲6.3)

(備考) () は前回 (9月) 調査比修正率。
調査対象は日本銀行前橋支店管内。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額

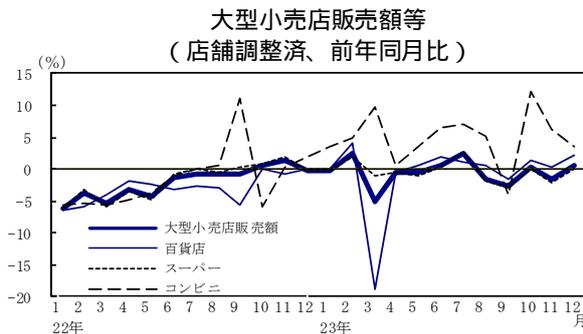
大型小売店販売額は、前年同期比で0.2%減、前期比で0.1%減となった。

百貨店は、10月は、気温が高かった中旬までは低調であった主力の衣料品が、下旬からの冷え込みで挽回したことから前年を上回った。11月は、絆需要を背景におせちやクリスマスケーキの受注状況が好調であったことから前年を上回った。12月は、気温の低下とともに重衣料を中心に衣料品全体が好調であったことから3か月連続で前年を上回った。

スーパーは、平年に比べ気温が高い日が多かったことにより鍋物商材などの飲食料品が低迷したことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「3か月前と比べて買上金額、客単価は少なくなってきているものの、客数は若干増えてきているので、売上はそれほど変わっていない(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	▲1.2	▲0.1	▲0.5	▲0.2
百貨店(*1)	▲5.6	0.6	0.1	1.4
スーパー(*1)	0.1	▲0.3	▲0.6	▲0.6
大型小売店(*2)	▲0.7	0.9	1.9	2.0
(季節調整値)(*3)	(▲3.1)	(2.1)	(0.1)	(▲0.1)
乗用車(*4)	▲26.1	▲35.9	▲21.8	21.4
(季節調整値)(*4)	(3.9)	(▲18.4)	(33.7)	(7.4)

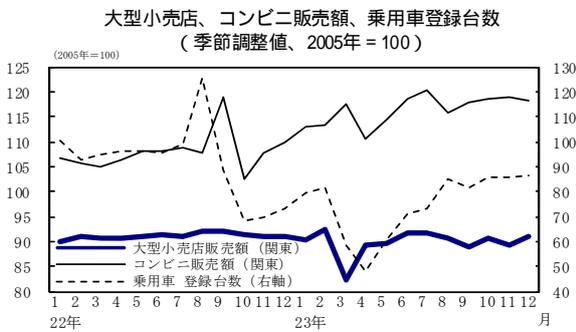
(備考)1. 北関東地域、店舗調整済、前年同期比(%)、10-12月は速報値

2. 北関東地域、店舗調整前、前年同期比(%)、10-12月は速報値

3. 関東全域、店舗調整前、前期比(%)

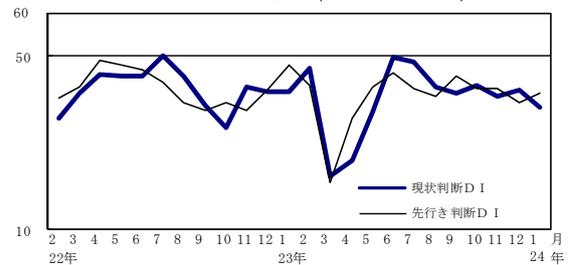
4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



※大型小売店販売額、コンビニ販売額は店舗調整前

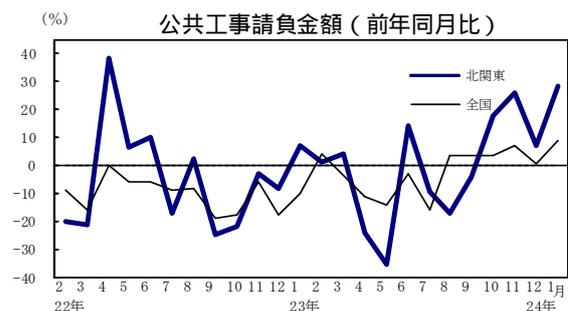
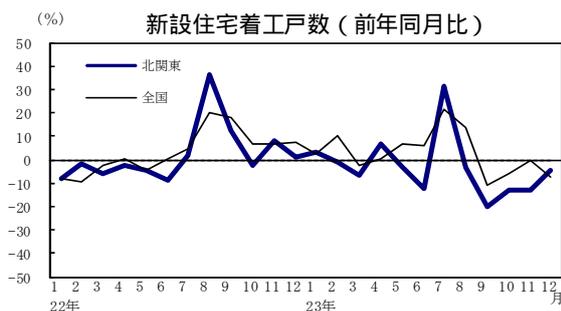
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は減少している。

持家及び貸家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

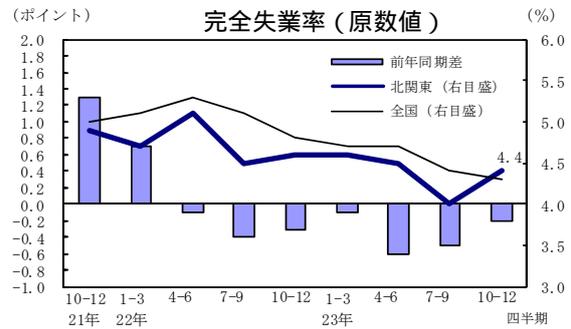
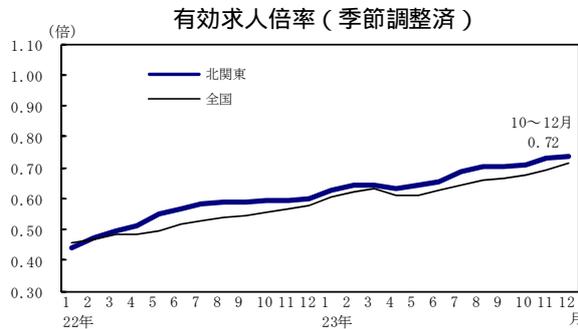


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (12月) [雇用関連 (現状)]

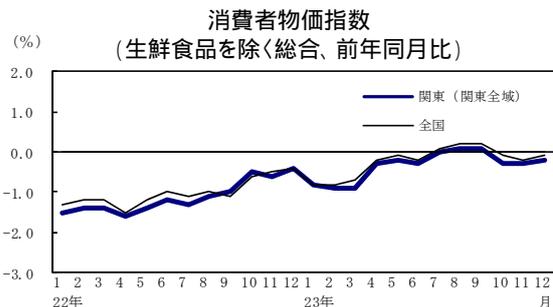
「求人数はここ数か月徐々に多くなってきているが、企業で人員の雇用調整を行う事業所も若干出てきており、何とも言えない状況である (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	24年1月
倒産件数 (前年比)	169 ▲18.8	185 5.1	146 ▲18.9	156 ▲8.2	44 ▲38.0
負債総額 (前年比)	429 ▲37.8	762 83.7	4,701 365.1	1,015 89.8	158 ▲27.3



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・販売対象車が軽自動車及び低燃費の小型車に偏り、それに伴って利益が少ない状態が続いている (乗用車販売店)。

<先行き>

・電気料金の値上げ等の報道で、省エネ商材の動きが良くなると思うが、不透明である (家電量販店)。

